【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第３部門第３区分
【発行日】平成17年10月6日(2005.10.6)

【公開番号】特開2003-64265(P2003-64265A)
【公開日】平成15年3月5日(2003.3.5)
【出願番号】特願2002-152101(P2002-152101)
【国際特許分類第７版】
　Ｃ０８Ｌ 101/00
　Ｂ０５Ｄ　 7/24
　Ｂ３２Ｂ　13/12
【ＦＩ】
　Ｃ０８Ｌ 101/00
　Ｂ０５Ｄ　 7/24　　３０１Ｆ
　Ｂ３２Ｂ　13/12

【手続補正書】
【提出日】平成17年5月23日(2005.5.23)
【手続補正１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】特許請求の範囲
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
　ａ）第１のポリマーの粒子；および
　ｂ）第２のポリマーの粒子
を含有する水性ポリマーブレンド組成物であって：
該第１のポリマーは２５０，０００またはそれ以上の重量平均分子量を有し；該第２のポリマーは１５０，０００またはそれ以下の重量平均分子量を有し；該第２のポリマーの粒子は平均粒子径２０ｎｍ～３５０ｎｍを有し；該第１のポリマーのガラス転移温度および該第２のポリマーのガラス転移温度は実質的に同じ値を有し；
該第１のポリマーの該第２のポリマーに対する重量比は１：３～３：１であり；
該第１のポリマーおよび該第２のポリマーのガラス転移温度の平均値は１５℃～５０℃の範囲であり、
ならびに、該組成物が２重量パーセント未満の界面活性剤を含有する、水性ポリマーブレンド組成物。
【請求項２】
　該第１のポリマーのガラス転移温度および該第２のポリマーのガラス転移温度の差が５℃またはそれ以下である、請求項１記載の水性ポリマーブレンド組成物。
【請求項３】
　該第１のポリマーの粒子が平均粒子径６０ｎｍ～１７０ｎｍを有する請求項１記載の水性ポリマーブレンド組成物。
【請求項４】
　該第２のポリマーの粒子が平均粒子径６０ｎｍ～１７０ｎｍを有する請求項３記載の水性ポリマーブレンド組成物。
【請求項５】
　コートされたセメント質基体の調製方法であって、以下の工程：
ａ）ｉ）第１のポリマーの粒子；および
　　ｉｉ）第２のポリマーの粒子を含む水性ポリマーブレンド組成物であつて、

該第１のポリマーは２５０，０００またはそれ以上の重量平均分子量を有し；該第２のポリマーは１５０，０００またはそれ以下の重量平均分子量を有し；該第２のポリマーの粒子は平均粒子径２０ｎｍ～３５０ｎｍを有し；該第１のポリマーのガラス転移温度および該第２のポリマーのガラス転移温度は実質的に同じ値を有し；
該第１のポリマーの該第２のポリマーに対する重量比は１：３～３：１であり；
該第１のポリマーおよび該第２のポリマーのガラス転移温度の平均値は１５℃～５０℃の範囲であり、
ならびに、該組成物が２重量パーセント未満の界面活性剤を含有する、水性ポリマーブレンド組成物を調製する工程、
ｂ）未硬化セメント質基体へ該水性ポリマーブレンド組成物を適用し、コートされた未硬化のセメント質基体を形成させる工程；および
ｃ）該コートされた未硬化セメント質基体を硬化させ、該コートされたセメント質基体を形成させる工程を含む、前記調製方法。
【請求項６】
該第１のポリマーのガラス転移温度および該第２のポリマーのガラス転移温度の差が５℃またはそれ以下である、請求項５記載の方法。
【請求項７】
該第１のポリマーの粒子が平均粒子径６０ｎｍ～１７０ｎｍを有する請求項５記載の方法。
【請求項８】
該第２のポリマーの粒子が平均粒子径６０ｎｍ～１７０ｎｍを有する請求項７記載の方法。
【請求項９】
コートされたセメント質基体を含む物品であって：
ａ）セメント質基体；および
ｂ）ｉ）第１のポリマーの粒子；および
ｉｉ）第２のポリマーの粒子
を含有する水性ポリマーブレンド組成物であって：
該第１のポリマーは２５０，０００またはそれ以上の重量平均分子量を有し；該第２のポリマーは１５０，０００またはそれ以下の重量平均分子量を有し；該第２のポリマーの粒子は平均粒子径２０ｎｍ～３５０ｎｍを有し；該第１のポリマーのガラス転移温度および該第２のポリマーのガラス転移温度は実質的に同じ値を有し；
該第１のポリマーの該第２のポリマーに対する重量比は１：３～３：１であり；
該第１のポリマーおよび該第２のポリマーのガラス転移温度の平均値は１５℃～５０℃の範囲であり、
ならびに、該組成物が２重量パーセント未満の界面活性剤を含有する、水性ポリマーブレンド組成物から形成されたコーティングを含むコートされたセメント質基体を含む物品。
【請求項１０】
該第１のポリマーの粒子が平均粒子径６０ｎｍ～１７０ｎｍを有する請求項９記載の物品。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００４４
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００４４】
スケール０（黒）から１００（白）までのスケールにしたがって黒から白を測定するＬ＊スケールを用いた比色測定により二次白華耐性の程度を測定した。コートされたセメント質基体が黒色のスラリーコートを有し、白華により基体表面上に白色付着物が形成されるので、Ｌ＊値は白華の程度が増大するにつれ増大した。初期Ｌ＊値を測定した後、コー

トされたセメント質基体を水浴中に入れた。セメント質基体を水浴から取り出し、１８時間乾燥させた後、最終Ｌ＊値を測定した。Ｌ＊値の差、ΔＬ＊＝（最終Ｌ＊値）－（初期Ｌ＊値）により二次白華を測定した。許容できるΔＬ＊値は、０以下であり、これは許容できる二次白華耐性であることを示す。

水白化耐性試験：促進実験室試験において水白化耐性の程度を評価した。コートされたセメント質基体を６０℃水浴（Ｐｒｅｃｉｓｉｏｎ Ｗａｔｅｒ Ｂａｔｈ ２７０型循環水浴）からの湿分の凝縮水に２４時間曝した。コートされた面を６０℃の水に面して水面上４ｃｍに保持する金属格子上で水浴上にコートされたセメント質基体を設置した。コートされたセメント質基体を水浴から取り出した直後に評価した。